



Tokyo Gakugei University Repository

東京学芸大学リポジトリ

<http://ir.u-gakugei.ac.jp/>

Title	図書館ニュース vol.30, no.1
Author(s)	東京学芸大学附属図書館
Citation	
Issue Date	2001-04-00
URL	http://hdl.handle.net/2309/60008
Publisher	東京学芸大学附属図書館
Rights	

図書館ニュース

Vol.30, No.1 (2001.4)

「こころの時代」を旅する

上野一彦

友だちと本

「若い時代の心の伴侶としては、友だちと書物とがある」三島由紀夫の『葉隠れ入門』の冒頭のこの一節は真に当を得ている。生きとし生けるもの、邂逅の喜びは、無二の親友、水魚の交わり、刎頸の友と、ついには生死を分かち合つ程の絆へと育っていく。「友遠方より来たる、また楽しからずや」の感興も人生の極みである。

異性との出会いもまた然り。作家スタンダールは『恋愛論』のなかでこれを結晶作用と呼んでいる。もっとも精神分析学者フロムは『愛するという事』において、初恋の激情を、本当の愛ではなくそれまでの寂しさに比例すると正視してはいるが。

友との出会い、心の交接は、互いに発達、成熟するなかで、新たな感動を生み、重ねながら、その人生を彩っていくことは確かである。同じことは書物にも言える。書物との出会いの感動は、探し求めていた自分との出会い、つまりはアイデンティティをどの程度感じるかによる。同好の士ともなれば、挨拶代わりに「最近、なにかおもしろいもの読んだ？」といった会話が口火ともなる。

この本は彼には合うが、あの人には合わないといった判断が脳裏を過ぎるのも、相手の人間をどの程度深く知っているかによる。一方、人から薦められた本に意外なほど共感できず、薦めた相手との関係を一瞬振り返ってしまうといったことも宜なるかな。

目次

「こころの時代」を旅する(上野一彦).....	1
私の中の本と図書館への思い(國仙久雄).....	3
BIBLIOFILE 40 : CD-ROM 資料	5
お知らせコーナー	
CD-ROM データベースをオンライン版へ切り替えました!	7
平成13年度の図書館オリエンテーションの実施について	7
平成13年度前期図書館暦(4月~9月).....	8

しかし、友だちと書物の間には唯一、決定的なちがいがあがる。生身の友だち自身は日々成長し、変化していくが、書物自体は決して変わらないということである。

由起夫は語る。「それはたとえ本棚の一隅に見捨てられても、それ自身の生命と思想を埃だらけになって、がんに守っている。われわれはそれに近づくと、遠ざかるか、自分の態度決定によってその書物を変化させていくことができるだけである」

本が呼ぶ

たまたまぶらりと本屋に行くと、読んでくれ、読んでくれと、自分を呼んでいる本にめぐり会うことがある。目に飛び込むというか、吸い込まれるように手に取ってみたいくなる本、感じとれる本である。ミヒヤエル・エンデの『はてしない物語』も、ある日こうして私に声をかけてくれた。現実の世界と空想の世界をセピアとブルーの二色のインクで刷り分けた、実に洒落た魅力あふれる雰囲気包まれていた。

ヨースタイン・ゴルデルの『ソフィーの世界』もどことなくそんな顔立ちをした本だった。「あなたはだれ？」15歳の誕生日を迎えるソフィー・アムンセンに届いた最初の手紙に入っていたたった一行のことは・・・

高校の哲学の教師だったゴルデルが、子どもに向けて書いたミステリー仕立ての哲学史ファンタジー。哲学なんて、およそ古色蒼然とした実生活と無縁の学問と受け取る若者が多いのでは。血液型や星座占い、はたまた動物占いならなじみはあっても。

この本にある話。たまたま南アフリカ南端の測量にむかうビーグル号に同乗したチャールズ・ダーウインは、彼の有名な「進化論」の発想のきっかけをその旅で見つける。

「生存競争は、もっとも近い種のあいだでもっとも厳しい・・・同じ餌をめぐる闘いだからだ。するとごく小さな違い、つまり普通よりもちょっとすぐれていることが決定的になる・・・」

この一節は、今の子どもたちの学校生活にも妙に当てはまる。それぞれの個性に応じた生き方を見つけるといふより、みんなが同じ所で同じ目的で同じやりかたで生きることを余儀なくされている。いつの間にか同じであることが目的化して、ちょっとし

た違いや差に敏感で、不安を感じたり、それがいじめにもつながる。

ゴルデルはダーウインを通して、現代の子育てにも通じる人類の知恵を伝えている。そんな本のつづやきが聞こえた日はそれだけで何となくハッピーなものである。

こころの時代を旅する

たくさんの友だちをもつことも素晴らしいが、数少なくとも最後まで心を許せる親しい友をもつことはさらに得難い喜びである。しかし、書物ばかりはそうもいかない。座右の書もないではないが、やはり、自分の感性に合うかもしれない刺激的な未知の本を、たくさん手元に置いておきたい。

常に枕元に何冊か積み上げられていないと安眠の態勢に入りにくくなったのはいつの頃からだったろうか。心理学者ユングは、誰も人生の折り返し点を自覚するときがあるという。就職、結婚、そして家庭人、社会人としての認知を求め必死に働き、努力する過程で、ふとターニングポイントを感じる時がやってくる。

そのとき人は、自分はどこから来て、どこへ行くのか、自分の残りの人生に意味を見つけようとし始める。それは避けることのできない終焉への心の準備なのかもしれない。

ミレニアム(千年紀)世紀、半世紀、四半世紀と、人間は連続する時の流れを区切るのが好きなようだ。そうした時の流れのなかで人の心も価値観も確実に変わっていく。だからこそ人は普遍的な何かを求めるともいえる。

ある歴史学者は、現代を「こころの時代」と呼んでいる。それはあふれる物の豊かさと情報の氾濫の中で、自分を見失いがちになる危機感を、現代人は本能的に察知しつつあるからだろう。「こころの時代」は、自分をとりもどし、自分らしさを求める時代ともいえる。そうした時代だからこそ、本物の友だちと書物を求め続ける旅をし続けることに意味と幸せを一層感じるのではないだろうか。

(うへの・かずひこ 副学長)

私の中の本と図書館への思い

國 仙 久 雄

新入生のみなさん入学おめでとうございます。昨年度図書館委員だった國仙久雄です。何か本に関することを書いてほしいと言われ、自分自身の本との関わり、本と図書館とのつきあいなどを書きたいと思います。

ある人から聞いた話なので正確さには少し欠けるところがあるのですが、このごろの大学生は平均して毎月本を一冊程度しか読まないとの報告があるそうです。しかし、私は本をたくさん読む学生と、ほとんど読まない学生の平均がこの結果に現れていると分析しています。でも、この話を聞いたときは本当のことだろうかと驚き、こんなではいけないと言う気持ちになったのを覚えています。どうして本を読まなくなったのでしょうか？本という情報媒体はもう必要ないのでしょうか？いま、私たちは自分に必要な情報をさまざまなメディアから得ることが可能になりました。むしろどのメディアから情報を得るかどうかが選択に迷うほどになったと思います。今までも本を読むと言うことの大切さを多くの方が述べられてきたと思います。今まで本を結構読んだと思っている私としては、自分のことを少し振り返りながら先にも述べましたが、本や図書館の良さを書いていこうと思います。

私は小さいころは体が弱かったので、外で遊ぶこともありませんでしたが家の中で本を読むことが多かったように記憶しています。小学校高学年くらいになると小樽市の図書館へよく本を借りに出かけたものでした。今はどのようになっているかわからないのですが、当時は地方の図書館のため新しい本など多くはなく、ビニールテープで修理してあるような本が多かったことなんかを覚えていたりします。たまに

は少し背伸びをして児童向け以外の本を借りてよくわからないまま読むこともありました。

中学校に入学してからは一時期本を読まなくなってしまいました。しかし一種の逃避だったのかもしれませんが、受験間際に本を読み出してしまい、勉強もせずに夜遅くまで机に座っていたものです。そのころは現実を忘れて歴史小説の中の人物のようになりたいと思いながら読んでいました。高校では図書館はいい時間つぶしの場所でした。時間のある日は昼休みや放課後に出かけ端から順に読んでいました。

私が一番本を読みたいと思っていたのは高校・大学・大学院受験中でした。その時期に最優先にやらなくてはならない事項（受験勉強でしょうか）が決まっている時期に限って本を読みたくなるのです。なぜか忙しいときほど本を読みたくなるのでした。高校受験の時は歴史小説におぼれ、大学受験時にはエッセイと中国文学を読みふけり浪人も経験しました。このころはお金もなかったものですから主に文庫本を買い、中国文学はその手の話に詳しい友人の真似をして岩波文庫を読んでいたと思います。その影響かどうか、今でも文庫本がでるまで待つてから買うようにしています。別に特別本が好きではないのですが振り返ってみると、よくこんなに読んでいたと思います。今はあの時ほどの勢いでは読まなくなりました。どうしてあんなに本を読んだのかと考えてみると、冒頭でも少し述べましたが、あの頃は何か自分に必要な情報を得ようとか、落ち着いた楽しい時間を過ごそう、自分だけの充実した時間を過ごそうとしたとき、本を読むことが一番魅力的な手段だったからでしょうか。

私が一番本を読んだと思う高校生だったのは、今

からちょうど20年前ですからテレビやラジオはありました。しかしこれらのメディアは今も同様ですが、自分の想像力を使わなくてもよい情報を流し続けています。これらに比べると本を読むと言うことは実に大変です。自分の読みたい本を選ぶ。本を手に持ちページをめくる。一文字一文字小さな活字を目で追いかける。一文一文の内容を想像し理解し、さらに想像し納得する。本を読むという行為は、なにもしなくてもある種のわかりやすい形で情報を提供しているテレビやラジオを見る、聞くと比べ大変な作業です。しかし、このような大変な作業もすぐに慣れ、逆にとても楽しい作業に変わることは、本を読むことが好きな人は誰でも経験していることです。それどころか、活字を読まないで落ち着かなくなるようになってしまうのです。あまり本を読んでこられなかった方には、この苦痛を通り越し、活字を読まないことには一日が終わらないようにすることを強くおすすめします。

私が改めて言うまでもなく、すでに言われてきたことですが、本のいいところは何度も自分が納得するまで気軽に読み返すことができることです。自分のペースで一文一文の内容を想像し理解し、さらに想像し納得することができるのは、本を読むと言った行為でしか得られないと思います。

最近はまだ手軽に情報を得られるメディアである「インターネット」が登場しました。ほとんどの学生はすでにネットワークの中、HTMLで記述されたいろいろなホームページをブラウザを使って見たことがあると思います。そこには既存のテレビやラジオとは異なる種類の多くの情報の閲覧等が可能です。自分の知りたい情報を検索し、ディスプレイに表示させ、それを読む場合が多いのではないのでしょうか。

もちろんテレビのように動画と音声を使った情報もありますが、多くは本と同じように読む形式も多いと思います。このようなホームページを読む行為は本を読むという行為と同じであると思います。そう考えると本はあまり読まないが、インターネットはよく利用する学生は、一文字一文字小さな活字を目で追いかけて、内容を想像し理解し、さらに想像し納得することが苦もなくできるようになっているはずです。ですから、冒頭に述べたように月に一冊の本も読まない学生が多いという事態は、ほんの少しのきっかけで大幅に改善されるのではと希望がもてるのです。まずは何でもいいから図書館で本を手に取ってみてはいかがでしょうか。

今までの図書館と言えば、主に書籍というメディアを用いた情報提供を行ってきたと思います。書籍による情報を効率よく利用者に提供するシステムを構築してきたのです。書籍について例を挙げるなら、紙からマイクロフィルムを経て電子媒体を用いた形になっています。書籍のみならずインターネットによる情報発信の役割も担うシステムが模索され、図書館に関わる事務官そして教官が、これからの効率よい情報提供サービスを目指しています。現在、図書館は様々なメディアを用いて情報を提供する役割を担っています。書籍はもとより学術的に貴重な資料の保管や展示、情報検索サービス、インターネットを用いた電子図書の配信など、数多くのサービスを我々利用者に提供しています。このような図書館の行っている数多くの情報提供をうまく利用し、数多くの本を読み充実した学生生活を送ることができるよう祈っています。

（こくせん・ひさお 金沢工業大学助教授
前本学化学科化学研究室助教授）



BIBLIOFILE 40

CD-ROM 資料

1. CD-ROM とは

CD-ROMとは音楽用のコンパクトディスクに使用されている直径12cmの再生専用光ディスクを利用し、音楽、音声のほかテキスト、画像、コンピュータデータなどをデジタル情報として記録し、パソコンの外部媒体として利用できるようにしたものです。コンパクトディスク(CD)を利用した読み出し専用メモリ(ROM: read only memory)ですのでCD-ROMというわけです。

いまのパソコンにはCD-ROMドライブが付いているのが当たり前のようになっていますが、規格が標準化されたのが1988年のことです。パソコン雑誌の付録にCD-ROMが付きはじめて、爆発的に広まっていったのは1994年あたりからです。CD-ROMが付録として付いた図書も珍しくなくなりました。しかし、私たちの身近なものになってからまだ10年に満たない媒体です。

540MBから600MBもの大容量記録が可能なことが特徴のひとつですが、画像を扱うCD-ROM資料の中には1枚ではデータが収まりきらずに複数枚のCD-ROMが必要なものもあります。最近出てきたDVD(Digital Versatile Disk)はCDと同じサイズで4.7GBと7倍以上もの記憶容量があり、記録方式によっては17GBのものもあります。画像や音声を扱う分野などでは今後はDVDにとって変わられることも予想されています。

2. CD-ROMの行方

本学附属図書館でも1992年からCD-ROM検索コーナーを設けて、スタンドアロン(CD-ROM資料を直接パソコンのCD-ROMドライブに挿入して単独で利用すること)で利用できるようにしました。

1995年には「PsycLIT」と「ERIC」の2種類の文献データベースをCD-ROMサーバに入れ、ネット

ワーク対応にしました。学内LANに接続したパソコンから検索できるようになったわけですが、インターフェースがtelnetによるラインモードであったため、初心者には使いやすいものではありませんでした。

1999年のシステムの更新で、大容量のCD-ROMサーバを入れ、ウィンドウによる使いやすいインターフェースに改善し、雑誌記事索引、ERIC、PsycLIT(2000年からPsycINFOに変更)、LLBA(Linguistics & Language Behavior Abstracts)、現行法令CD-ROM、リーガルベース(最高裁発足以降に刊行の判例約10万件の法律情報データベース)と6つのCD-ROMデータベースを提供できるようになりました。しかし、今年からとをインターネット版に変更し、は無償のインターネット・サイトを利用していただくことになりました。

このように、文献データベース系のCD-ROM資料は最初スタンドアロンで使っていたものが、ネットワーク対応になり、さらにインターネット利用へと変化しています。こうした方向は今後とも続くと思われる。

1999年の秋に百科事典のBritannicaが、インターネット上で無料で公開(<http://www.britannica.com/>)されました。辞書・事典系のCD-ROM資料も今後はインターネットの利用に変化していくのかも知れません。

しかし、まだデータベースや辞書・事典が全てインターネットで利用できるということではありません。当分はCD-ROM資料を入手してスタンドアロンで利用するものと、インターネットを利用するものが併存していくことでしょう。

3. スタンドアロンでのCD-ROMの利用

これからスタンドアロンで利用できる主要なCD-ROM資料を簡単に紹介していきますが、その前に利

用方法をご説明します。

- ・ CD-ROM 資料は附属図書館2階のCD-ROM 検索コーナーで利用できます。
- ・ 利用時間は平日の9:00 ~ 17:00 です。
- ・ 利用したいCD-ROM 資料が決まったら、参考調査カウンターに申し出てください。CD-ROM 資料の検索はOPACで検索条件に「CD-ROM」と入力してください。
- ・ CD-ROM 資料によっては使えるパソコンが決まっているものがあります。また検索ソフトのインストールから始めなければならないものもあります。職員の指示に従ってください。
- ・ CD-ROM 検索コーナーに設置してあるパソコンには、利用度の高いCD-ROM 資料の検索ソフトをあらかじめインストールしてあります。また、パソコン毎に使えるCD-ROM 資料を表示してあります。
- ・ その他、個別のCD-ROM 資料の利用方法などは、参考調査カウンターに相談してください。

4 . 所蔵 CD-ROM 資料

- ・ 国立国会図書館所蔵逐次刊行物目録

国立国会図書館が所蔵する逐次刊行物のデータ。Webcatで雑誌の所蔵が見つからない場合に利用することが多いものです。なおWebcatとは国立情報学研究所の総合目録データベースのWeb版で、総合目録とは複数館の所蔵データを合わせて編集し、所在を明示した目録のことです。

- ・ 国立国会図書館蔵書目録

国立国会図書館が所蔵する昭和23年度までの和図書データ。国立国会図書館のWeb-OPAC (<http://webopac2.ndl.go.jp/>)に昭和23年以降の和図書のデータがありますので、これと合わせることで明治期以降のデータが検索できます。

- ・ 朝日新聞戦後見出しデータベース 1945-1999

朝日新聞縮刷版の記事索引をデータベース化したもの。DNA朝日新聞全文記事データベース(学内で利用できるのは図書館2階の特定の端末だけです)と合わせるにより、1945年から今日までの朝日新聞の記事が検索できます。

- ・ 大宅壮一文庫雑誌記事索引

「大宅壮一文庫」所蔵の雑誌からの記事索引データ

を収録。索引の対象は一般誌、大衆誌ですので、時事的なテーマを調査するのに欠かせません。

- ・ International ERIC

『Australian Education Index』と『British Education Index』のCD-ROM版。オーストラリアとイギリスの教育関係の雑誌、報告書などの抄録・索引です。ERICと合わせるにより英語圏の教育文献情報がカバーできます。

- ・ 理科年表CD-ROM 2000

国立天文台編纂の理科年表73冊分(大正14年版 - 平成12年版)の膨大な数値データを1枚のCD-ROMに収録。データは表計算ソフトでも利用可能です。

- ・ 気象庁天気図 平成元年 ~ 10年7月

気象庁作成の天気図類及び観測データを収録。平成元年 ~ 8年は年毎に、平成8年3月 ~ 10年7月は月毎に1枚のCD-ROMになっています。

- ・ 文淵閣四庫全書

文淵閣四庫全書とは清の高宗が蒐輯した叢書で北京の文淵閣に収められたもの。その原文を画像データで収録しています。総目1枚、経部23枚、史部46枚、子部38枚、集部45枚、合計153枚のCD-ROMで構成されています。

- ・ 平凡社世界大百科事典 第2版

平凡社世界大百科事典の第2版が2枚組のCD-ROMになっています。通常の索引検索や全文検索のほか70のビジュアルなテーマから百科事典を探索していくビジュアル探索などができます。

- ・ Oxford English Dictionary on compact disc, 2nd ed.

オックスフォード英語大辞典の第2版、全20巻が1枚のCD-ROMに収められています。

この他、CD-ROMの辞書としては以下のものも所蔵しています。

- ・ 広辞苑 第4版

- ・ 中日/日中統合辞典 国際版

- ・ 新編英和活用大辞典

- ・ Collins Cobuild on CD-ROM

- ・ Random House unabridged dictionary, 2nd ed.

- ・ クラウン独和辞典

- ・ クラウン仏和辞典

- ・ 12か国語大辞典

(情報サービス課参考調査係)

お知らせコーナー

CD-ROM データベースをオンライン版へ切り替えました！

附属図書館では2001年4月より、これまでCD-ROMサーバで提供してきた「雑誌記事索引」と「PsycINFO」をオンライン版で提供することにしました。また「ERIC」のCD-ROMによる提供を中止しました。

「雑誌記事索引」は1975年から現在までの日本国内の学術雑誌・大学紀要・専門誌330万件以上の論文・記事情報を収録したデータベースです。「PsycINFO」は1887年から現在までの心理学及び行動科学分野の包括的データベースで、世界20カ国以上の雑誌約1,500タイトル及び書籍とその章、学位論文、テクニカルレポートを収録していて抄録まで閲覧できます。今後はインターネットでの利用となりますので、端末の機種を問わず、Webブラウザさえあればご利用になれます。CD-ROM版の利用にあたって必要とされた各種の設定は必要ありません。なお、オンライン版の場合もCD-ROM版と同様、東京学芸大学のキャンパス内からの利用に限定されます。

さて、「ERIC」はアメリカの教育情報センターが提供する1966年から現在までの北米の教育関係のデータベースです。雑誌約800タイトル及び会議録、各種報告書を収録していて抄録まで閲覧できます。「ERIC」を無料で検索できるサイトがありますので、今後はそちらをお使いください。附属図書館のホームページからリンクを張ってありますが、通常の実験には「AskERIC (<http://eric.syr.edu/Eric/>)」が、シソーラスを活用した検索には「Search ERIC Wizard (<http://searcheric.org/>)」が便利です。

平成13年度の図書館オリエンテーションの実施について

平成13年度の図書館オリエンテーションを以下のとおり開催します。

新入生のための図書館オリエンテーション

4月16日(月)から20日(金)までの5日間実施します。実施時間は右表を見てください。

館内を廻りながら、附属図書館の利用方法を40分程度でご説明します。自由参加です。

	10:30 ~ 11:10	14:30 ~ 15:10	16:10 ~ 16:50	18:00 ~ 18:40
16日(月)				
17日(火)				
18日(水)				
19日(木)				
20日(金)				

文献の探し方オリエンテーション

5月と10月に開催します。実施日は右下表を見てください。各日も10時30分からの2コマ目に実施します。

60分から90分程度で簡単な文献の調査法や入手方法についてご説明します。

各回とも予約制ですので、附属図書館2階の参考調査カウンター(TEL042-329-7223)に申し込んでください。なお、3名以上のグループでの申し込みであれば、希望の日・時間帯に別途、実施しますので相談してください。

開催日	月	火	水	木	金
5月	14日	15日	/	17日	18日
	21日	22日		24日	25日
	28日	29日			6月1日
10月	15日	16日	/	18日	19日
	22日	23日		25日	26日

平成13年度前期図書館暦(4月～9月)

日	4月		5月		6月		7月		8月		9月		日
1	日	休館	火		金	文献の探し方オリエンテーション	日		水		土	休館	1
2	月		水		土		月		木		日	休館	2
3	火	3年生オリエンテーション	木	憲法記念日	日		火		金		月	延長再開教育実習開始～10/12	3
4	水	延長開始3,4年生授業開始	金	休日	月	教育実習開始～6/22	水		土	休館	火		4
5	木		土	こどもの日	火		木		日	休館	水		5
6	金	学部入学式	日		水		金		月		木		6
7	土		月		木		土		火		金		7
8	日		火		金		日		水		土		8
9	月	新入生オリエンテーション	水		土		月		木		日		9
10	火		木		日		火		金		月		10
11	水	1,2年生授業開始	金		月		水		土	休館	火		11
12	木		土		火		木		日	休館	水		12
13	金	連合大学院入学式	日		水		金		月		木		13
14	土		月		木		土		火		金		14
15	日	大学院入学式	火		金		日		水		土	敬老の日	15
16	月	新入生のための図書館オリエンテーション	水		土		月		木		日		16
17	火		木	文献の探し方オリエンテーション	日		火		金		月		17
18	水		金		月		水		土	休館	火		18
19	木		土		火		木		日	休館	水		19
20	金		日		水		金	海の日	月		木		20
21	土		月	文献の探し方オリエンテーション	木		土		火		金		21
22	日		火		金	教育実習終了	日		水		土		22
23	月		水		土		月		木		日	秋分の日	23
24	火		木	文献の探し方オリエンテーション	日		火		金		月	振替休日	24
25	水	休館：館内整理	金		月		水	休館：館内整理	土	休館	火		25
26	木		土		火		木		日	休館	水	休館：館内整理	26
27	金		日		水	休館：館内整理	金	授業終了	月		木		27
28	土		月	文献の探し方オリエンテーション	木		土	休館	火		金		28
29	日	みどりの日	火		金		日	休館	水	休館：館内整理	土		29
30	月	振替休日	水	休館：館内整理	土		月		木		日		30
31			木	休館：創立記念日			火		金				31

* 臨時休館日については、その都度掲示しますので、ご注意ください。

授業期 平日(月～金) 開館時間 9:00～22:00
土・日・休日 開館時間10:30～16:30

授業期 平日(月～金) 開館時間 9:00～17:00